

研究テーマ：医学的治療の対象となっていない児の身体運動評価と運動指導方法について  
 —園と県立広島大学の連携による児の継続的フォローアップ形態の確立—

研究代表者（職氏名）：島谷康司（理学療法学科 助教）

連絡先  
 (E-mail等)：shimatani@pu-hiroshima.ac.jp

共同研究者（職氏名）：櫻 啓子（社会福祉法人 櫻学園 さくら保育園 園長）

### ★研究課題

現在、医学的治療対象とならない児に対する地域支援体制はないが、ニーズは非常に高く、その必要性を強く感じている。

地域社会の下で、保育士と理学療法士との連携が機能することにより、医学的治療対象とならない幼児の運動発達遅延の原因を専門的に追究し、さらに運動発達を促すことができると考える。さらに、家族への指導なども含め、継続的な幼児のフォローアップが可能になると考える。

### ★目的（平成19年度）

\* 検証1：乳幼児健診後のフォローアップ体制の現状を知る

\* 検証2：医学的治療対象とならない幼児の身体運動能力の評価方法の検討

### ★検証1：三原・尾道・福山の乳幼児健康診査後の支援体制と連携について

#### 方法

乳幼児支援に関する現状に関して担当保健師に対する聞き取り調査を実施

#### 結果

- ①保健師が診て相談が必要であっても顕在化していない幼児も多い
- ②5・6歳の就学前の相談が増えてきている市もある

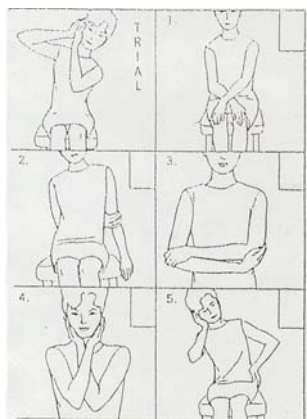
#### 考察

- ①医学的治療の対象にはなっていないが、発達遅延の可能性のある幼児も存在
- ②就学に向けて、縦の連携に対する対策などが必要

### ★検証2：医学的治療対象とならない幼児の身体運動能力の評価方法の検討

#### 方法

「肢位模倣検査」、「人物描画」、「くぐり動作時の身体接触の実証研究」を実施



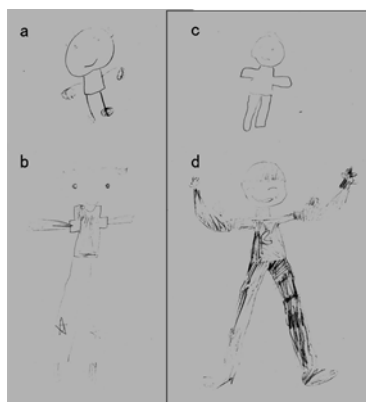
南カリフォルニア感覚統合検査  
 肢位模倣テスト12項目の1例

(日本感覚統合障害研究会認定講習会資料より引用)

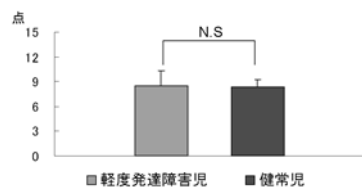


くぐり動作時の身体接触の実証実験

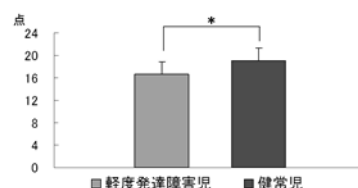
## 結果



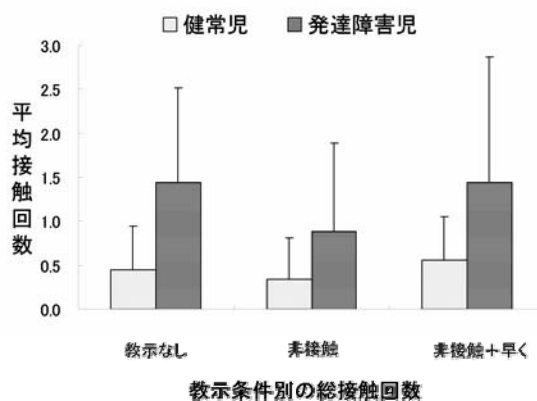
a, b: 健常児  
c, d: 軽度発達障害児  
人物描画の1例



人物描画得点 (最高15点)



肢位模倣得点 (最高24点)



## 考察

健常児と比べると・・・

- ・発達障害児は（健常児よりも）ぶつかることが多い
- ・発達障害児は（健常児より）肢位のモノマネが難しい
- ・発達障害児の自画像を描画する能力は健常児と同じ

今後の計画： 平成 20 年度県立広島大学重点研究事業「地域課題解決研究」において継続中  
計画案； 医学的治療の対象となっていない幼児の継続的支援体制の構築と運動指導の提案

## 平成 19 年度研究成果

### 発表論文

- ・島谷康司, 清水ミシェル・E, 金井秀作, 長谷川正哉, 小野武也, 沖貞明, 大塚彰  
広島県東部 3 市における乳幼児健康診査後の支援体制と連携について.

人間と科学 県立広島大学保健福祉学部誌, 167-172, 2008.

- ・島谷康司, 関矢寛史, 金井秀作, 長谷川正哉, 田坂厚志, 大塚 彰, 沖貞明  
人物描画, 肢位模倣からみる幼児の自己身体認識.

理学療法の臨床と研究, 17, 29-34, 2008.

### 学会発表

- ・島谷康司, 金井秀作, 長谷川正哉, 大塚彰, 沖貞明, 関矢寛史

軽度発達障害児の運動・行為と人物描画・肢位模倣について. 日本発育発達学会第 6 回大会,  
2008. 3, in 北九州市.